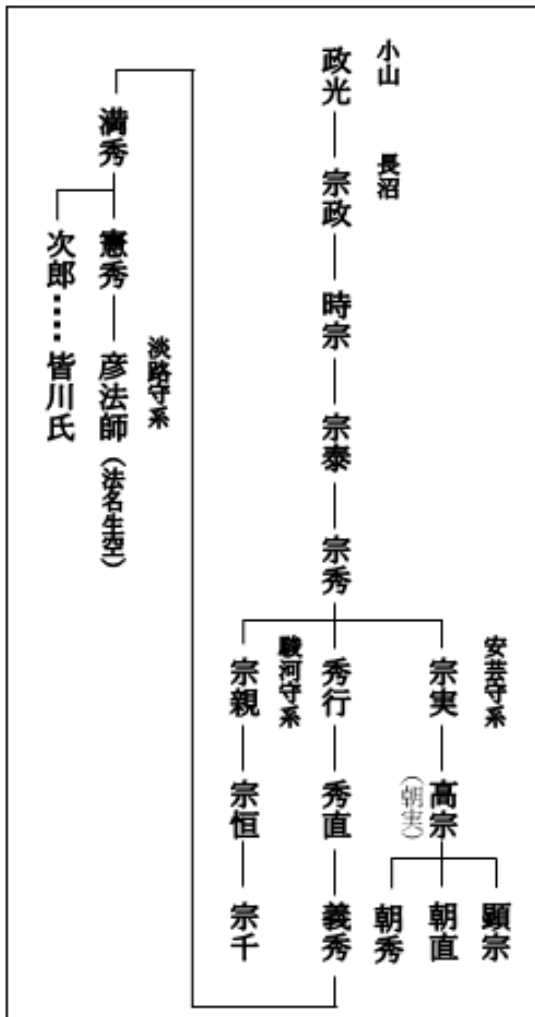


ながぬま 長沼氏 真岡市長沼地区

現在の真岡市長沼地区を本拠地とした長沼氏は、平安時代に平将門の乱を鎮圧した武将である藤原秀郷の子孫です。長沼氏の祖である「長沼宗政」は、有力な武将だった小山政光の次男ですが、当時の長沼庄を領地としたため長沼氏を名乗りました。また、兄（小山朝政）や弟（結城朝光）とともに、源頼朝の鎌倉幕府成立のために大きく貢献し、幕府の重臣となりました。宗政は長沼庄の他にも淡路国守護職や美濃（岐阜県）、陸奥（長沼氏の領地があったのは現在の福島県南会津町周辺）、淡路（兵庫県の淡路島）などに所領を得ました。



長沼宗政（「栃木県立博物館」）



長沼氏系図（「二宮町史」より）

長沼氏は、続く南北朝時代には、戦乱の影響で多くの所領を失いました。しかし、室町時代には復活をとげ、関東を代表とする有力大名（関東八屋形）へと成長しました。その後の戦国時代には、下野国皆川庄（栃木市）に本拠を移し、新たに皆川氏を名乗って活躍しました。織田信長や徳川家康などと交流をもちながら、戦国時代を巧みに生き抜き、皆川氏は江戸時代の大名として続きました。

- 長沼宗政 讓状
- 一、下野国長沼庄
- 二、同国小葉郷
- 三、同国御厩別当職
- 四、陸奥国南山（長江庄）
- 五、美濃国石太郷
- 六、同国五里郷
- 七、同国津布良
- 八、美作国大野保内円宗寺
- 九、備後国内平野保
- 十、武蔵国柏原郷
- 十一、淡路国守護職
- 十二、同国地頭職
- 十三、京・鎌倉屋地

↑ 宗政が子の時宗に与えた讓状からは、全国各地に長沼氏の所領・所職が広がっていたことが分かる。